

【様式25】

提 案 の 概 要

施設名： 農業文化園・戸田川緑地

団体名： チームYMO

(構成団体：公益財団法人名古屋市みどりの協会・
株式会社山田組・株式会社オオバ)

(1) 管理運営全般について

①施設の管理運営に対する方針等

- ◆ 本公園は、「農業公園」と「都市公園」の特性が異なる2種類の公園が隣接し、エリア毎に多様な役割と役割に沿った施設のある、南北約2.5kmにわたり広がる約30haの広大な面積のある総合公園です。この広大な2つの異なる特性を持つ公園の役割を理解し、一体として管理運営を行うことが、管理者の責務と考えます。
- ◆ 私たちは、これまでに培ってきた市民ニーズのデータやコミュニケーションを活かし、市民や地域、企業・団体、教育・行政機関とのパートナーシップ＝『つながり』によって様々な取り組みを行い、公園の利用価値を高め、自然とふれあい、農業体験やレクリエーションを通じて人々を未来へつなげる公園を展開していきます。

上記を踏まえ、農業文化園・戸田川緑地で1日を通して楽しんでいただけることを目指し、「遊ぶ」「学ぶ」「つながる」を管理運営のコンセプトに掲げ、「行こうよ！農とみどりのOne-Day Trip」をテーマとして管理運営に取り組みます。

コンセプト1 遊ぶ ～広大なフィールドで誰もが楽しく～

コンセプト2 学ぶ ～フィールドを生かした魅力ある体験～

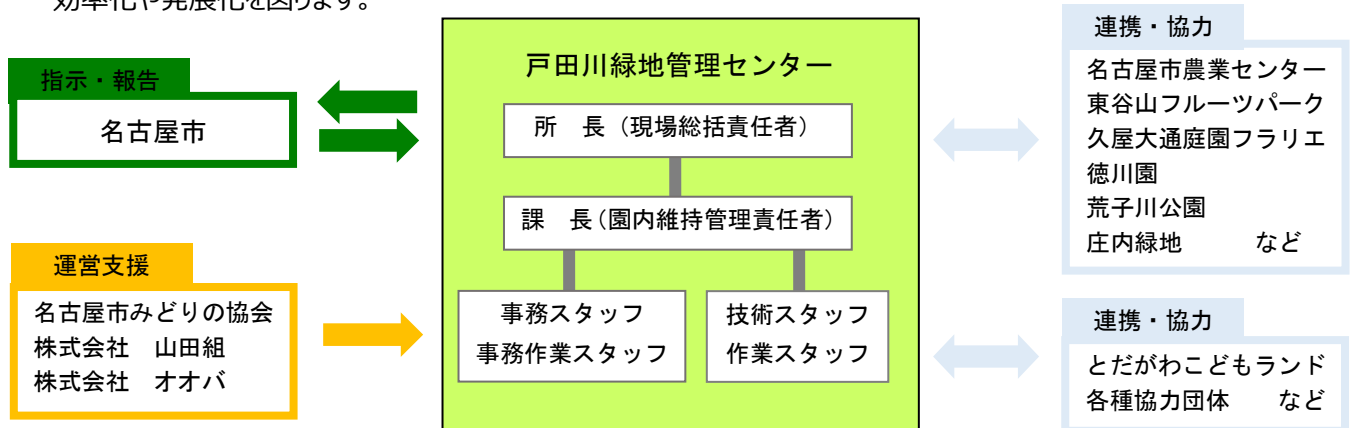
コンセプト3 つながる ～広がり育まれるコミュニティを創出～

②管理運営体制

公園管理運営は、現地での問題解決や変化への迅速な対応力、公園利用者の声や地域のニーズを反映した対応が重要であるとの認識から、本部と現地が一体となり、効率的・効果的な管理ができる体制をとり、管理運営します。

【組織・体制】

- ・ 現地に責任者・有資格者を配置し、企画立案から事業実施・改善活動や名古屋市との調整・報告などは、基本的に現地が責任を持って担当する体制とします。
- ・ コンソーシアムの本部が互いの能力・ノウハウを生かし、現場の管理運営への支援、人材育成に取り組みます。
- ・ 管理運営している類似施設間において、共通する業務の合同作業、資機材の貸出し、連携企画などを行い、業務の効率化や発展化を図ります。



【人材育成にかかる対応】【情報管理体制】

- ・ 公園の特性に合わせた人材育成へ取り組み、社会情勢や公園利用のニーズを把握した研修や資格取得支援を、現場や本部協力のもと実施していきます。
 - 接遇講習、個人情報保護研修、公園施設（遊具）の点検研修、消防訓練・緊急時の対応訓練、公園管理運営研修 など
- ・ 管理運営に関わるボランティアへの講習、情報提供も行います。本部と現場が一体となって「人」を育むことにより、農業文化園・戸田川緑地の管理運営や地域との協働への発展へ取り組みます。
 - ボランティア養成講座、ボランティアによるイベントの企画の接客対応指導 など
- ・ 情報や各担当の業務内容などを共有する会議を定期および適宜開催して、現場が一体となった管理運営を行います。また、維持管理、事務管理、苦情・要望、アンケートの結果やイベントの気づきの点のすべてにおいて情報共有を行います。

【施設修繕・保守点検】

- ・ 施設や建築物の特性、設置場所、利用頻度などを把握した日々の巡視と定期巡視による複数の視点での点検、情報の共有により、不具合の見落としを防止します。また、コンソーシアム構成企業の安全管理担当職員による「安全パトロール」（月 1 回）を実施します。
- ・ 施設の特性に合わせた予測や、施設整備台帳などを用いた予防保全型の施設管理を実施することで、事故の発生を防ぎます。
- ・ 施設の修繕・更新時には環境にやさしいエコ製品の利用や、耐用年数の長い素材に変更して施設の耐久性を高めます。
- ・ 仕様書に定められた、点検基準および各種関係法令を遵守します。

【災害時の危機管理体制】【事故発生時の対応】

- ・ 緊急時は個別事象ごとに整理された「農業文化園・戸田川緑地危機管理マニュアル」に基づき対応します。
- ・ 防災に関して、農業文化園は津波避難ビル、戸田川緑地は広域避難場所に指定されているため、関係機関および地域との連携を引き続き緊密にしています。

（２）実施業務の計画について

①指定管理業務

世代を問わずだれもが楽しく遊べ、稲作・野菜作り、花・樹木・野鳥や昆虫など園内の施設や自然環境を最大限活用し、体感することで利用者が学べる場を提供します。本公園の管理実績を活かし、地域や多様な団体との協働のつながりによる、より魅力的な公園へ発展させます。

【利用者意見の聴取・反映】

- ・ 多角的な手法によりニーズを把握します。
 - こどもモニタリングの実施、「戸田川緑地賢人会議」による地域・有識者の意見聴取、アンケートのデジタル化、ビッグデータの活用 など

【利用促進策】

- ・ とだがわこどもランドと様々な連携を図ります
 - とだがわこどもランドとの連携事業「とことこプロジェクト」を立ち上げ、定期的な情報交換の場所を設けるとともに、食農・食育・自然あそび等の各事業を充実させ、お互いの広報効果を高める

- ・ 「Todappo（とだっぽ）」の開催
 - 「植物観察と押し花づくり」など、園内の魅力を満喫するための体験や観察などを組み合わせたツアーを開催
- ・ 「Toda-Vege Kitchen（とだベジキッチン）」の実施
 - 園内での収穫体験後に園内で調理し食べられる機会を提供
- ・ 植物管理による利用促進策
 - 大面積花壇「花の丘」は、春はネモフィラで一面青く、秋はコキアの鮮やかな紅葉で真っ赤に染め上げ、SNS で発信したくなるような修景を創出
 - ソメイヨシノより早く咲く「カワヅザクラ」や「クマノザクラ（三重県熊野市で約 100 年振りに発見されたサクラの原種）」を植栽。現在あるカンヒザクラ、ソメイヨシノと合わせ、本公園のセールスポイントの一つである、長い間サクラのお花見ができる公園として利用者に楽しんでもらえるとともに、マスコミにも取り上げてもらえるよう情報提供を実施
 - 戸田川緑地を代表する人気スポットである広々とした起伏のある芝生広場は、快適性を維持するために、水準表の回数に縛られることなく常に利用しやすい草丈の維持に努める など
- ・ 運用による利用促進策
 - 施設名を聞いただけで特徴や提供されるサービスがイメージできる愛称を併記することで、利用を喚起する
 - 日が長い夏休み期間中は農業科学館などの開館時間を延長、年末の需要のある時期の売店の臨時営業、サービスセンターの冬季平日営業など、利用者の動向に合わせて、施設の利用時間・営業期間を調整 など

【地域連携】

- ・ 「なごやさいプロジェクト」の実施
- ・ 名古屋産野菜（なごやさい）を使った「なごやさいプロジェクト」を展開し、規格外の野菜を原料とした商品を開発・販売することでフードロス減少にもつなげる
- ・ 「Toda_Zemi（とだぜみ）」の実施
 - 意欲的な市民による公園の利用促進策実現にむけた取り組みをサポートする
- ・ 地域の魅力アップへの取り組み
 - 「花と野菜のにじ色農場」で育てた際の余剰花苗を地域学区へ配布し、地域の魅力アップに貢献

【ボランティア活動】

- ・ 誰もが気軽に参加しやすいボランティアとして、当日受付、参加無料、遊びの合間に気軽に参加できる活動「ちょこっとボランティア活動」を実施

【施設特有の管理】

- ・ 様々な収穫体験や講習会の実施を通じて、「農」と触れ合う場を提供し「農」を体験・学習できる場とする
- ・ 農業科学館の展示や 2 階屋上緑化をリニューアルし、SNS やオンラインを活用した農に関する情報を発信
- ・ 野菜軽トラ市、マルシェなどを定期的で開催し、農家と消費者が直接交流できる場を提供
- ・ 3 農業公園が連携し、合同イベントの開催や相互施設の情報発信、「なごやさい」を用いた新たな商品開発に取り組む

②自主事業

- ・ 陽だまり館では平日の利用を高めるため、地域の方の協力による「なごやさい」ランチや総菜などを平日に提供します。
- ・ 「なごやさい」のロス部分や「地域のブランド米」を使用したオリジナル商品を地域のお店と共同で開発・販売します。
- ・ 年 3 回の季節イベント（春の物語、初夏の物語、秋の物語）に加え、地域の方々が主体となり公園を舞台として活躍していただく「陽のさとプロジェクト」として年 4 回のイベントを実施

(3) 収支計画について**①管理運営にかかる費用等**

【各年度の提案総額】 (単位：千円)

年 度	金 額
令和 5 年度	209,950
令和 6 年度	209,950
令和 7 年度	209,950
令和 8 年度	209,950
合計	839,800

【期間を通じた収支計画】(指定期間を通じた項目別内訳)

○収入 (単位：千円)

費 目	金 額
指定管理料 (A)	835,000
収益事業還元金 (B)	4,800
収入合計	839,800

○支出 (単位：千円)

費 目	内 容	金 額
人件費	人件費および福利厚生費	351,600
光熱水費	電気・ガス・水道料金	62,800
駐車場管理費	イベント時 2 回／年	28,000
管理費	消耗品費、清掃費、建物管理費、植物管理費、設備保守点検費、修繕工事費、広告宣伝費、一般管理費、租税公課 等	397,400
支出合計		839,800

【経費節減の取り組み】

実績と経験による管理運営のノウハウを活かし、利用者サービスの質を確保しながらスケールメリットを最大限に生かした経費節減に努めます。

- ・ 電力会社とその他公園も含めた一括契約による法人割引適用など、経費節減につながる契約方法を検討します。
- ・ 他公園と保守点検など同一業務を一括発注します。